

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0176100147		
法人名	株式会社 美咲環境センター		
事業所名	グループホーム「アルメリア」東ユニット		
所在地	北海道美咲市東5条南4丁目3番9号		
自己評価作成日	令和2年10月16日	評価結果市町村受理日	令和2年11月12日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0176100147-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和2年10月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

アルメリアの花言葉「思いやり」を職員全員が心に刻み、創設時の「願い・思い」を風化させること無く日々仕事にあたっています。住宅地で「遊緑通り」公園に面し立地条件もよく、四季の移り変わりをホールから見渡せる採光に配慮した建物は、入居されている方にも安心感を与える暮らしやすいホームとなっております。ホームに面した道路は小中学校の通学路となっており、毎日子供たちの元気な姿が入居者にも新鮮に感じてもらっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームアルメリア」は、自然に恵まれた静かな環境に位置する2ユニットの事業所である。建物の居住スペースは全て平家建で両ユニットがロビーとつながり一体的である。遊歩道に面しているなどの立地や広い庭や畑、花壇を有しており、建物も含め生活の環境構成に優れている。ロビースペースを活用した地域等とのつきあいや行事の取り組みなども特筆できる。感染症対策のため自粛ではあるが例年、養護学校児童の学習発表の公開、小学校スクールバンドの演奏、ボランティアではオカリナや踊りの方々が訪れて交流を行っている。敬老会や誕生会、クリスマス会、カラオケ大会、収穫祭などを広いスペースで両ユニットの全員が集い、時々家族も交え賑わい楽しんでいる。日々の楽しみごと職員が工夫し、ボール投げやカルタ、ジェンガ、塗り絵などを一緒に行っている。畑で手づくりした枝豆を枝から豆を外す作業は職員のお手本にもなる集中した手捌きで、また日常の食事や掃除の手伝いなど利用者の生活リハビリの環境を整え、持っている力を引き出しながら作業療法的に行われている。介護計画実施の一例では、排泄の促しや誘導、見守りをきめ細かく支援し、90歳代の利用者が布下着のみで過ごしている。事業所独自に家族アンケートを工夫し、サービスの質の向上に活かしている。職員は利用者が生み出す物語に共感する姿勢で寄り添い、回想も交えて会話が弾んでいる。職員の優しさと弛まない努力とが窺える事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(東ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は提示し、ケアに結びつくようにしている	経営理念と地域密着型サービスの意義や役割を盛り込んだ5つのケア理念を標榜している。ケア理念はミーティングにて職員全員で話し合い作られている。自由な意思の尊重、尊厳の保持、物語への共感など、職員は日々の中で実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職員が町内会の役員となり町内の方などと蜜に接している	酒造会社から酒粕の寄贈や近隣住民から野菜の提供がある。現在は感染症対策のため難しいが、例年オカリナや踊りのボランティア、養護学校児童、小学校スクールバンドなどの訪問を受け交流している。町内会は閉鎖されたが元役員の方々の協力が得られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員会を利用し、地域の方に理解を深めてもらっている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、全家族に会議案内書を送付し、欠席の場合でも意見を出して頂けるよう案内している。会議で出た意見等スタッフに伝えている	近々の会議は9月に開催しメンバーの参加が得られている。この1年では新型コロナウイルス感染症予防対策、防災マニュアル、ケアプラン、研修、利用者の生活状況等を協議している。服薬について意見が出され、内容を支援に反映させている。会議案内文書に家族から意見聴取する仕組みがある。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所の担当の方と話し合っている	施設長は市の担当部署へ直接出向き、運営についての相談や申請書類等で意見を仰いでいる。運営推進会議に保健福祉部長の出席を得た開催月がある。認定更新時は、日常生活や身体状況等の情報を伝達し連携している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	個人の状況を考え、拘束とならないように職場ミーティングで研修会を実施したり、スタッフ間で話し合いをしている。	高齢者虐待防止及び身体拘束廃止に係る指針を整備し、定期的に高齢者虐待防止及び身体拘束廃止委員会を開催し、事例検討も適宜交え行っている。これらに係る内容の研修会はユニットごとに社内研修として、今年は2月・8月に実施している。玄関の施錠は夜間帯のみである。状態変化に応じたリスクに関する家族との話し合いを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、内容をスタッフに伝え虐待とならないように注意している		

グループホーム「アルメリア」

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(東ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援の利用があり、必要な方には利用を促している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分に説明をし、家族の協力を得られるようにしている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話や訪問時、本人の状態を伝え家族の希望も聞くようにしている	利用者本人が要望等を表しやすい環境であり、席替えや食事についてもその都度対応している。入浴・食事・レクリエーションなど家族の知りたい支援別にアンケート調査を実施するなど、質の確保や向上に活かしている。事業所便りや個別の手紙、電話等で積極的に情報を発信している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	連絡会議を開き、話し合いの機会を設けている	各ユニット会議に施設長が参加し職員の意見や提案を聞いたり、その都度個別に職員から希望等が出しやすい環境である。各ユニット会議の議事録を相互に把握できる仕組みについて職員提案に応じると、現場職員の意見や情報を取り入れ調整している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員相互の資質や能力に応じた対応をしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要に応じて外部研修への参加を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	日本グループホーム協会に入り情報を共有している		

グループホーム「アルメリア」

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(東ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	GHで出来る事を本人へ伝え、混乱されないようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接を通じて、家族の協力の重要性を伝え利用者のニーズを知るようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人がGHで生活できるか、ショートステイ利用、訪問して面接し、家族が不安に思っている事や希望など話し合い対応している		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の能力に応じて、調理や掃除をスタッフと一緒にやっている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時や電話で本人の状態を伝え相談し関係を築いている。毎月、近況報告(手紙)にて状態を報告している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の住んでいた町内の方、知人の来訪時に面会の場所を提供している	以前住んでいた自宅近郊にあった馴染みの飲食店などを通院帰りにドライブで見たり、昔の美唄の様子や炭鉱の事など本人が喜ぶ回想を職員が支えている。感染症の流行でとどまっているが、以前同じサークルであった方や宗教関係の方などの訪問がある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや作業を一緒に行ってもらったり、食卓の席を考慮している		

グループホーム「アルメリア」

自己評価	外部評価	項目	自己評価(東ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年賀状や電話を通し、家族の相談に応じるなど関係継続を大切にしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族にアンケートを送付し、家族からもこれまでの本人の暮らしや様子を聞き、暮らしがより良いものになるよう意見交換している	職員は利用者に関心をはらい、何が本人の願いや思いなのか会話や観察等により把握に努めている。これまでも本人の希望する事を生活支援で実施してきているが、趣味や嗜好欄を新たに設け利用者の基本情報シートの充実を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から話を聞いている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の個人生活シートの利用で把握に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の送り時の話し合い、モニタリング、面会時の家族の希望でプランに反映させている	毎月のユニット会議で利用者全員分のカンファレンスを行い、現状の把握や課題、新たな支援の検討を行っている。個人生活シートを始め特に介護記録に利用者の言動を詳細に記しアセスメントやモニタリングに活かしている。関係者間の意見を反映させ計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の状態を特記事項に記録しプランに利用している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急時の受診対応や本人の状態に応じて家族と相談して補助具の使用などを検討している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事やボランティアの受け入れを行い、交流の場を設けている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診の利用を含め家族の希望に応じてかかりつけ医を決めている。受診時の家族の負担に配慮している	利用契約時に家族とかかりつけ医を相談している。月2回の内科・週1回の精神科の往診、週2回看護師による健康管理の体制を整えている。他科受診は家族による通院対応が難しい場合は適宜事業所で対応している。利用者個別の受診記録が整備されている。	

グループホーム「アルメリア」

自己評価	外部評価	項目	自己評価(東ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員に状態を伝え相談している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護添書や電話を利用し情報交換や相談をしている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時より家族に重度化した場合の相談しており理解してもらっている	重要事項説明書に重度化した場合の事業所での対応を明示し、利用契約時に説明し同意を得ている。重度化等の支援にあつては、医師や家族と話し合いや合議を進め、事業所で対応し得るぎりぎりのところまでの支援や他への移行支援を行っている。	重度化した利用者への適切な介護支援(介護技術の向上等)に向け、取り組む方針を示しているのので、その実現に期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの利用、事故発生時の対応をスタッフに伝えている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の実施や運営推進委員会の利用で地域の協力を得られるようにしている。年2回の夜間想定避難訓練の他、停電を想定した防災訓練を実施。	防災マニュアル・非常災害総合対策計画を整備している。5月・10月に夜間想定下での火災避難訓練を実施し、9月は地震から停電を想定し炊き出しや車両に乗車するなどの実践的な訓練を行った。防寒対策に係る災害備蓄品の充実を図っている。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入室時にはノックし、本人が不快にならないような言葉遣いや対応に注意している	職員は思いやりの気持ちと尊厳を重視した対応をしており、話しかけも丁寧に行っている。書類の保管も宿直室で人目につかないよう配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けや質問の仕方を考慮し、自己選択と自己決定が出来るようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のその日の体調を考慮し、無理のないよう声掛けしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望を聞き促し声掛け介助している		

グループホーム「アルメリア」

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(東ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や片付けが出来る入居者がいない。メニューの希望を聞いても答え(-)。食器拭きは、朝1名・夕1名にお願いしている。	行事や誕生会に海鮮の出前を取ったり、季節ごとに鰻や年越しそば、お節料理を食べている。畑の野菜を収穫して豆ごはんを提供したり、職員と一緒にぼたもちを作るなどの楽しみもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者に応じた量や大きさなど工夫し、飲み物も飽きないように種類を増やし工夫している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・夕の洗面時や本人に合わせた洗浄してもらっている。声掛け・介助		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の排泄リズムを把握し、定時誘導を行い汚染時声掛けに工夫し、パンツ等交換している	個人生活シートに水分、尿、便の記録を付け、尿意を感じられない利用者には個々に応じた声掛けでトイレへ誘導している。なるべく失敗しないよう気配りをしながらトイレで排泄ができるようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の摂取と運動を促しスムーズな排便が出来るようにしている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望にあわせ出来るだけ同姓介助している。入浴を楽しめるよう入浴剤を利用している	1日に3名が午後の時間帯に30分程度の入浴をしている。利用者ごと3日に1度の入浴ができています。入浴の苦手な利用者には温泉に入ろうと声をかけて楽しいひと時になるよう職員が対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体力・体調に合わせ休息できるよう気配り声掛けをしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院の処方箋を利用して理解している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の出きる事得意なことを考慮し、作業やレクレーションを行っている		

グループホーム「アルメリア」

自己評価	外部評価	項目	自己評価(東ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調や季節を考慮して、買い物や散歩ドライブ等行っている	今年度は感染症対策として外出の制限があるものの、近くの公園や庭先に出て散歩をしている。通院の帰りにドライブがてら遠回りをして季節感を感じている。家族の協力で買い物や外食に出かけている利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力をいただき対応している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも電話できる環境で、書いた手紙の投函等支援している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ロビーにてCDをかけ音楽を聴いたり歌を歌ったりしている。花や植木などを置き手入れや見て楽しめるようにしている	両ユニットとも余裕のある共有空間でソファに腰掛けテレビを見たり雑談をしている。エアコンや加湿器を設置し快適な空調管理をされており居心地のよい共有空間になっている。両ユニットの間にあるロビーも広く明るい造りで開放感があり、地域交流の他、カラオケやダンス、体操や歩行訓練にも活用している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやTVを設置して談話できるようにしたり、食事の席を決め他者に遠慮せず暮らせるようにしている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具、身の回りの品を使用してもらい居心地よく過ごせるよう工夫している	予め防災カーテン、照明器具、テレビ、ベッド、冷蔵庫が備え付けてある。家庭で使っていた馴染みのものや家族写真、趣味の物を持ち込み、安心して暮らしている。新聞や本を読むなど、居心地のよい部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや食堂に大きな看板をつけたり、自室に名前をつけ理解してもらっている		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0176100147		
法人名	株式会社 美唄環境センター		
事業所名	グループホーム「アルメリア」		西ユニット
所在地	北海道美唄市東5条南4丁目3番9号		
自己評価作成日	令和2年10月16日	評価結果市町村受理日	令和2年11月12日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0176100147-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和2年10月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

アルメリアの花言葉「思いやり」を職員全員が心に刻み、創設時の「願い・思い」を風化させること無く日々仕事にあたっています。住宅地で「遊緑通り」公園に面し立地条件もよく、四季の移り変わりをホールから見渡せる採光に配慮した建物は、入居されている方にも安心感を与える暮らしやすいホームとなっております。ホームに面した道路は小中学校の通学路となっており、毎日子供たちの元気な姿が入居者にも新鮮に感じてもらっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)		1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
		○	3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価(西ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は掲示しており、ケアに結びつくようにしている		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の方と挨拶し、交流を図っている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の代表を交え運営推進委員会を行っている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	連絡会議を通して運営推進委員会の内容をユニットに伝え議事録を回覧している		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	電話や訪問で担当者と連携を密にしている		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	連絡会議や日々の申し送りにおいて常に身体拘束について話し合いを持っている。また毎月のユニットのミーティングで身体拘束について研修を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ケアマネ等が外部の研修に参加し内容をスタッフに伝えている		

グループホーム「アルメリア」

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(西ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援の必要な方には、利用出来るよう手続きをサポートしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に説明をし、家族に理解してもらっている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に家族の希望を聞きホームに伝えている。運営推進委員会に		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	連絡会議を開き話し合いの機会を設けている。運営推進委員会にスタッフも出席している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員相互の資質や能力に応じた対応をしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要に応じて外部研修への参加を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に入り他施設とも情報交換を行っている		

グループホーム「アルメリア」

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(西ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接を通し利用者のニーズを知るようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接を通し家族が困っていることや希望を聞きだすようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込み時のカウンセリングでサービスが適切かどうか見極めアドバイスをしている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事やレクリエーションを一緒に行う事で関係を築いていく		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	訪問時や電話で本人の状態を伝えて相談し、1ヶ月に一度、本人の状態を手紙「近況報告」に書き家族に郵送し、共に支えていく人間関係を築いていく		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの理容や美容室などに外出していただく事や知人や、町内の方の面会の場を提供している		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性を考慮し食卓の席を決めたり、ソファを集いの場にしていただきレクリエーションも一緒に行えるようにしている		

グループホーム「アルメリア」

自己評価	外部評価	項目	自己評価(西ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年賀状や電話で家族の相談に応じる等、関係継続を大切にしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からもこれまでの本人の暮らし方や様子を聞き、暮らしがより良い物になるよう意見交換をしている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人から話を聞きプラン反映に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の個人生活シートを活用し把握に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の申し送り時の話し合いモニタリングと面会時の家族の希望でプランに反映させている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	特記事項を記録しプランに活用している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急時の受診対応や本人の状況に応じて補助具を検討したりしている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れをして、地域の方と暮らしを充実させている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の希望に応じて、かかりつけ医を決めている。また往診の利用で医師と看護者の情報の共有を図っている		

グループホーム「アルメリア」

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(西ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームの看護師、訪問看護師に状況を伝え相談している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護添書の利用や本人の状況を電話を使い病院と情報の共有を図っている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重要事項に記載し、入居時より家族に重度化した場合の相談をしており理解してもらっている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変事故等については、迅速かつ効果的な対応が率直に出来るよう協議訓練を重ねている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時に地域の協力が得られるように、電話番号や住所を掲示している		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入室時にノック、本人が不快にならないような言葉使いに注意している		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けや質問の仕方を考慮し自己選択、自己決定が出来るようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のその時の体調を考え無理とならないように声掛けしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望を聞き、促し声掛けをしている		

グループホーム「アルメリア」

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(西ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下ごしらえ、食器の片付けなど一緒に行っているほか、メニューの希望を聞いている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者に応じて量や大きさを工夫し、飲み物も飽きないように種類を変えたりしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝夕の促しや見守りで洗浄してもらっている。必要な方には昼食後のうがいなどの促しを行っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人が気にされぬよう工夫し、パットの交換や排泄の促し定時の誘導を行っている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の摂取と運動を促し、スムーズに排便できるようにしている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望時間、希望の日を聞き配慮している。入浴を嫌う方にも声掛けに工夫して楽しめるようにしている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体力、体調に合わせて休息できるように声掛けしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院の処方箋を利用し理解している。症状の変化の確認に努め、必要に応じて看護師、病院に連絡し相談している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の出来ること、得意なことを考慮し作業やレクリエーションを行っている		

グループホーム「アルメリア」

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(西ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調を考慮し、買い物・散歩・ドライブなどに出かけている		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力と個人の能力に応じて支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも電話できる。書いた手紙の投函等を支援している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ロビーなどでCDをかけ音楽を聴いたり、カラオケや歌を歌ってもらっている。植木鉢をおいて手入れや眺めてもらっている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアーにソファを設置しテレビを見たり会話が出来るように、食卓席は相性を考慮し席を決め会話できるようにしている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具や身の回り品を使用してもらい仏壇や家族やペットの写真を置き居心地よく過ごせる工夫をしている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや食堂に大きな看板をつける。自室に名前をつけて混乱しないようにしている		

目標達成計画

事業所名 グループホーム アルメリア

作成日：令和 2年 11月 10日

市町村受理日：令和 2年 11月 12日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	33	入居者様の身体機能が衰えた場合、スタッフが対応しきれず、事故になる可能性が高い。	歩行介助等転倒とならない様、対応が出来るようにスタッフのスキルを高める。	コロナ終息後6ヶ月以内に介助方法の研修会を行い、介護技術を身につける。	コロナ終 息後6ヶ 月以内に 実施
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。